

愛知県環境審議会廃棄物部会（2026 年 2 月 6 日開催）における委員意見等への対応について

1 廃棄物部会における委員意見等について

	意見等	対応																
1	産業廃棄物の循環利用率に関して、減量化は非常に重要なプロセスであるが、減量化量を減らせば、資源化量も増える。焼却処理しなくていいものまで焼却していることがあるのではないか。最終処分量については、横ばいで、変わっていない中、循環利用率を上げるために、燃やさず、資源化量に回していくような取組を打ち出してもよいのではないかと思う。	減量化量を減らし、資源化量を増やすことは重要なことと考えております。次期計画においては、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用するサーキュラーエコノミーへの転換をより一層図っていけるように検討を進めてまいります。																
2	事業系一般廃棄物に関して、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、レストランなどは、事業系一般廃棄物を減らすという努力があまり伝わってこない。商工会議所に協力を依頼しても、なかなか苦しいということが言われている。家庭では頑張っているが、事業系の一般廃棄物が減らないということが現状としてあると思われるので、もう少し注目してみるとよいのではないか。	2月6日開催の環境審議会廃棄物部会の資料4図1－3「ごみの収集量の経年変化」をみると、2019年度から2023年度にかけて生活系ごみは8.5%、事業系ごみは9.3%減少しており、事業系ごみも生活系ごみと同様に減量が進んでいることがわかります。 事業系一般廃棄物の減量について、引き続き事業系食品ロス削減取組事例集による取組の周知等で事業者に向けた啓発を行っていきます。																
3	食品ロスについて、家庭系と事業系で概ね半々ぐらいの発生量だが、家庭系を減らすのに、例えばカット野菜を買いと家庭はよい一方で、事業系でその分出てしまう。またカット野菜を作ると、流通するまでに、半分ぐらい減ってしまう。また、事業系は集約できて、それを後で活用できるということがあるが、家庭系はクリーンセンターに行けば、焼却するしかない。方向としては間違っていないが、総じて言えば、事業系でも頑張ってもらわなければならないかと考えている。食品ロスの中でもリサイクルできる量があり、それを差し引いて、食品ロスという統計を出すといったことを考えれば、背中を押すような施策が考えられるのではないか。	次期愛知県食品ロス削減推進計画の策定に向け、2025年度に事業系食品ロスの実態調査を行いました。本調査の調査結果は、愛知県公式webサイトにて公表する予定です。 なお、あいち食品ロス削減パートナーシップ制度、コンビニエンスストアへのてまえどりPOPの配布、食品ロス削減イベントや事業系食品ロス削減取組事例集による事業者の取組の周知などを行っており、引き続き事業系食品ロスの削減に向けた施策に取り組んでいきます。 また、あいちサーキュラーエコノミー推進プランに基づく産官学連携のプロジェクトチームの会議運営等により、引き続き事業系食品ロス削減に資する事業化支援を行っていきます。																
4	プラスチックごみの減量が重要な課題であるが、例えば、家庭では、プラスチックで食品や衣料などが包装されており、プラスチックが入っていないものを買うのもなかなか難しい。消費者は受け身であり、減らそうと思っても減らせないというのは、日常の生活でよく感じる場所である。そのため、事業者の取組を強化していくしかないのではと思う。どこか目立ったケーススタディを作ることや、地元のスーパーマーケット等をうまく活用しながら考えていくという方向を促してもよいと思う。 ここ数年で商品のあり方や技術も変わってきている中で、少しずつ発想を転換しながら、データも見せ方を少しずつ変えていくとよい。そのため、統計では、事業系と家庭系とを分けて統計を見せるなど、それぞれの状況を明記し、工夫することを促すことがよいと思う。	2月6日開催の環境審議会廃棄物部会の資料4図1－1「ごみの排出・処理状況の経年変化」では、一人一日当たりの事業系ごみの量を明記しておりませんが、処理しなければならないごみの一人一日当たりの量から一人一日当たりの家庭ごみの量を引いた値が一人一日当たりの事業系ごみの量となります。 リサイクルされるごみを除いた一人一日当たりの家庭系ごみの量と一人一日当たりの事業系ごみの量をみると、2019年度から2023年度にかけて一人一日当たりの家庭系ごみの量は8.7%、一人一日当たりの事業系ごみの量は13.3%減少しています。 なお、ごみゼロ社会推進あいち県民会議※では、ごみゼロ社会の形成に資する取組を行っている個人、団体、事業者等を表彰する制度を2026年度から実施する予定です。 <table><tr><td>年度</td><td>2019年度</td><td>2023年度</td><td>増減率</td></tr><tr><td>処理しなければならないごみの一人一日当たりの量</td><td>753g</td><td>677g</td><td>▲10.1%</td></tr><tr><td>一人一日当たりの家庭系ごみの量</td><td>520g</td><td>475g</td><td>▲8.7%</td></tr><tr><td>一人一日当たりの事業系ごみの量</td><td>233g</td><td>202g</td><td>▲13.3%</td></tr></table> ※ごみゼロ社会の形成に向けて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の重要性を普及するため、事業者団体、消費者団体、女性団体、県内市町村等113団体により構成される団体（事務局：愛知県環境局資源循環推進課）	年度	2019年度	2023年度	増減率	処理しなければならないごみの一人一日当たりの量	753g	677g	▲10.1%	一人一日当たりの家庭系ごみの量	520g	475g	▲8.7%	一人一日当たりの事業系ごみの量	233g	202g	▲13.3%
年度	2019年度	2023年度	増減率															
処理しなければならないごみの一人一日当たりの量	753g	677g	▲10.1%															
一人一日当たりの家庭系ごみの量	520g	475g	▲8.7%															
一人一日当たりの事業系ごみの量	233g	202g	▲13.3%															

2 廃棄物部会後における委員意見等について

	意見等	回答
1	入口側の循環利用率は、新しい計画では、目標値や達成度が示されるのか。	入口側の循環利用率を含め本県における資源の利用状況（物質フロー）については、本日の資料3「資源の利用状況及び廃棄物処理の現況について」において、ご説明させていただきます。
2	出口側の循環利用率等の未達成の目標について、今後の目標達成の見込みや対策はどのようなか。	現行計画の進捗状況については、本日の資料4「次期計画の数値目標及び評価指標の設定について」において、ご説明させていただきます。
3	サーキュラーエコノミー推進のための産学官連携の取組は素晴らしく、バイオマスプラスチック等は、J クレジット申請も可能な事業に思えた。付加価値をうむこともでき、CO2 削減量をかせぐこともでき、少しでも検討進められるとよいかと思う。	J クレジット制度の登録・認証の申請につきましては、バイオマス複合プラスチック製品の製造等に関わったプロジェクトチーム参画メンバーと協議して検討してまいります。
4	国の環境白書との統一性として、資源生産性など指標を追加は可能であるか。一覧でみて、経年でどのような達成状況であるかが比較可能になると、愛知県の現状把握と今後の課題の明示になるかと思う。	資源生産性などの指標については、本日の資料3「資源の利用状況及び廃棄物処理の現況について」において、ご説明させていただきます。
5	域外との廃棄物・有価物含めてのフローは把握しているか。特に広域化なども含め、現実的な対策と、将来の実行効果予測モデルなどには、一考の価値はあるかと思う。	本県における資源の利用状況（物質フロー）については、本日の資料3「資源の利用状況及び廃棄物処理の現況について」において、ご説明させていただきます。
6	食品ロス関連について、非常に良く対策を実施されていると感じるが、内容のアピールも含めて、国の環境白書に掲載するなど、別途広報の必要があるのではないか。	食品ロス削減関連の施策については、本県の広報媒体や公式 SNS、関係イベントを通じて広報を行っています。引き続き、各種広報媒体を通じて県民や事業者に向けた啓発を行っていきます。

7

意見等

1）産業廃棄物の処理状況及び目標の達成状況（2023 年度）
・産業廃棄物処理の 2023 年度目標達成状況について、「排出量」は目標を達成している。また、「出口側の循環利用率」は未達成であるものの、2019 年度に比べて増加しており、達成に向けて順調に進んでいる。一方、「最終処分量」については、2019 年度に比べて増加しており、悪化している状況にある。
①最終処分量の目標達成状況が「未達成」の要因の一つに、「ばいじん」が挙げられると思うが、2023 年度の「ばいじん」の最終処分量 153 千トンが 2019 年度 18 千トンに比べて顕著に多い理由を、説明いただきたい。
②また、2023 年度の「ばいじん」の減量化・資源化率が 90.4%であり、2019 年度（98.7%）に比べて低い理由を説明いただきたい。
③上記の「ばいじん」については、一過性のことなのか、2024 年度以降も継続性のあることなのか説明いただきたい。

④2023 年度の「移出量」が 2019 年度に比べて多くなっている状況について、どのような考えでいるのか。
⑤「県内発生分の最終処分量」から「県内での最終処分量」を差し引いた量は、「県外への移出量」のことか。
⑥2023 年度は、差が大きいと思われるが、この件について、どのような考えでいるのか。

対応

①②③
「ばいじん」については、一部の大口事業者の工場稼働率が増加したと聞いている一方で、リサイクル先であったセメント需要が減っている状況もあり、このことが最終処分量の増加、減量化・資源化率の減少に影響したものと考えております。
なお、2024 年度の状況（速報値）は、最終処分量は 28 千トン、発生量に対する減量化・資源化率は約 98%となっております。

④⑥
2023 年度の産業廃棄物の県外移出量は約 3,486 千トンで、2019 年度の約 2,904 千トンに比べ、約 582 千トン増加しております。このうち、中間処理量は約 526 千トン増であり、主な種類別として、「ばいじん」が約 332 千トン、「鉱さい」が約 216 千トン増加しております。また、最終処分量は約 56 千トン増であり、主な種類別として、「その他（混合廃棄物、シュレッダーダスト等）」が約 38 千トン、「汚泥」が約 17 千トン増加しております（下表参照）。
なお、排出場所や排出事業者の所在地によっては隣接県の処分場が近い場合や、高度な産業廃棄物処理を行う処理業者が全都道府県に処理施設を設置しているとは限らず、移入・移出は起こるものであると考えております。

○産業種類別県外移出量(2019年度、2023年度)比較 (t)

	2023			2019			23-19		
	中間処理	最終処分	計	中間処理	最終処分	計	中間処理	最終処分	計
中間処理	3,115,576	370,586	3,486,161	2,589,872	313,996	2,903,869	525,704	56,589	582,293
燃え殻	287,159	13,373	300,532	211,317	9,986	221,303	75,842	3,387	79,228
汚泥	398,888	57,990	456,878	361,733	40,841	402,574	37,155	17,149	54,304
廃油	59,131	7	59,138	47,863	157	48,020	11,268	▲ 150	11,118
廃酸	104,038		104,038	21,884		21,884	82,153	0	82,153
廃アルカリ	28,140		28,140	54,207		54,207	▲ 26,067	0	▲ 26,067
廃プラスチック類	142,743	51,875	194,618	268,997	74,458	343,455	▲ 126,254	▲ 22,583	▲ 148,837
紙くず	11,625	971	12,595	21,615	199	21,814	▲ 9,990	772	▲ 9,218
木くず	69,453	1,755	71,208	159,331	192	159,523	▲ 89,878	1,563	▲ 88,315
繊維くず	9,163	717	9,879	12,078	695	12,773	▲ 2,915	22	▲ 2,894
動・植物性残さ	30,501		30,501	35,945		35,945	▲ 5,445	0	▲ 5,445
ゴムくず	49	20	69	49	0	49	▲ 0	19	19
金属くず	5,031	5,046	10,076	46,207	3,578	49,785	▲ 41,176	1,467	▲ 39,709
ガラス・陶磁器くず	81,850	25,847	107,697	87,918	25,767	113,685	▲ 6,068	80	▲ 5,988
鉱さい	418,850	2,494	421,343	203,172	6,508	209,680	215,677	▲ 4,014	211,663
がれき類	304,146	49,251	353,396	324,222	41,672	365,894	▲ 20,077	7,579	▲ 12,498
家畜のふん尿	5,942	1,075	7,017	928		928	5,014	1,075	6,089
動物の死体	5		5	100		100	▲ 95	0	▲ 95
ばいじん	786,994	21,438	808,432	455,211	9,104	464,315	331,784	12,334	344,117
その他	371,870	138,728	510,598	277,094	100,839	377,933	94,776	37,889	132,665

⑤ 「県内発生分の最終処分量」から「県外への移出量」を除き、「県内への移入量」を加えた量が「県内での最終処分量」となっております。

7

意見等

⑦2023 年度の「再生利用率」や「最終処分率」については、全国レベルとも比較して、愛知県の状況を把握することが望ましい。

対応

⑦「再生利用率」や「最終処分率」について、全国平均と比較した結果は下記のとおりです。

再生利用率については、2019 年度と 2023 年度の双方で全国平均より高く、良い状況ですが、最終処分率については、2023 年度の場合、最終処分量のうち、多くの割合を占めている汚泥、がれき類、ばいじん、それぞれの最終処分率の割合が全国値よりも本県のほうが高い（悪い）値となっていることから、全体の最終処分率も全国より高い（悪い）数値となっております。

◎再生利用率（排出量に対する再生利用量の割合）

	2019 年度	2023 年度	増減率
全国	52. 7%	54. 4%	1. 7 ポイント増
愛知県	68. 1%	69. 1%	1. 0 ポイント増

◎最終処分率（排出量に対する最終処分量の割合）

	2019 年度	2023 年度	増減率
全国	2. 4%	2. 4%	増減なし
愛知県	4. 8%	5. 8%	1. 0 ポイント増

○産業廃棄物種類別の最終処分量

(単位：t/年)

	県							
	R1				R5			
	排出量	最終処分量 (割合は構成比)	種類別 最終処分率	排出量	最終処分量 (割合は構成比)	種類別 最終処分率		
燃え殻	282,630	19,627	2.6%	6.9%	181,433	20,873	2.4%	11.5%
汚泥	2,863,732	158,525	21.2%	5.5%	2,034,379	138,241	16.0%	6.8%
廃プラスチック類	507,439	84,151	11.3%	16.6%	588,712	96,484	11.2%	16.4%
鉱さい	1,275,840	71,810	9.6%	5.6%	1,398,712	81,769	9.5%	5.8%
がれき類	3,144,945	150,938	20.2%	4.8%	3,042,426	138,723	16.1%	4.6%
ばいじん	1,316,113	18,305	2.5%	1.4%	1,480,415	153,431	17.8%	10.4%
その他	7,864,299	375,596	50.3%	4.8%	7,673,865	218,265	25.3%	2.8%
計	15,426,166	746,320	100.0%	4.8%	14,837,931	862,495	100.0%	5.8%

(単位：千t/年)

	国							
	R1				R5			
	排出量	最終処分量 (割合は構成比)	種類別 最終処分率	排出量	最終処分量 (割合は構成比)	種類別 最終処分率		
燃え殻	2,199	498	5.3%	22.6%	2,242	562	6.4%	25.1%
汚泥	170,841	1,780	18.9%	1.0%	154,127	1,492	16.9%	1.0%
廃プラスチック類	7,537	1,150	12.2%	15.3%	7,147	1,126	12.7%	15.8%
鉱さい	13,807	766	8.2%	5.6%	9,929	843	9.5%	8.5%
がれき類	58,930	1,828	19.4%	3.1%	61,133	1,575	17.8%	2.6%
ばいじん	16,232	1,091	11.6%	6.7%	18,202	1,264	14.3%	6.9%
その他	162,262	2,289	24.3%	1.4%	157,727	1,980	22.4%	1.3%
計	389,110	9,402	100.0%	2.4%	367,576	8,842	100.0%	2.4%

	意見等	対応																								
8	2) 一般廃棄物の処理状況及び目標の達成状況（2023 年度） ・一般廃棄物処理の 2023 年度目標達成状況は、「出口側の循環利用率」を除いて、目標を達成している。「出口側の循環利用率」についても、2019 年度に比べて増加しており、達成に向けて順調に進んでいる。 ・2023 年度の『ごみの一年間の総排出量を一人一日あたりに換算』や『ごみの総排出量から資源ごみ量と集団回収量を除いた「処理しなければならないごみの量」を一人一日あたりに換算』については、2019 年度から 2023 年度での増減率も含めて、全国レベルと比較することで、愛知県の状況を把握することが望ましい。	「一人一日当たりのごみ排出量」および「処理しなければならないごみの一人一日当たりの量」について、全国平均と比較した結果は下記のとおりです。 どちらの指標についても、2019 年度と 2023 年度の双方で全国平均より高く、良い状況であり、また、減量率が全国平均を上回っています。 ◎一人一日当たりのごみ排出量 <table><tr><td></td><td>2019 年度</td><td>2023 年度</td><td>増減率</td></tr><tr><td>全国</td><td>921g</td><td>851g</td><td>▲7.6%</td></tr><tr><td>愛知県</td><td>915g</td><td>831g</td><td>▲9.2%</td></tr></table> ◎処理しなければならないごみの一人一日あたりの量 <table><tr><td></td><td>2019 年度</td><td>2023 年度</td><td>増減率</td></tr><tr><td>全国</td><td>779g</td><td>720g</td><td>▲7.6%</td></tr><tr><td>愛知県</td><td>753g</td><td>677g</td><td>▲10.1%</td></tr></table>		2019 年度	2023 年度	増減率	全国	921g	851g	▲7.6%	愛知県	915g	831g	▲9.2%		2019 年度	2023 年度	増減率	全国	779g	720g	▲7.6%	愛知県	753g	677g	▲10.1%
	2019 年度	2023 年度	増減率																							
全国	921g	851g	▲7.6%																							
愛知県	915g	831g	▲9.2%																							
	2019 年度	2023 年度	増減率																							
全国	779g	720g	▲7.6%																							
愛知県	753g	677g	▲10.1%																							
9	3) 食品ロスの現況及び目標の達成状況 ・「県民アンケート」は、何名あるいは何%の県民の回答結果であるのか。アンケート調査は、バイアスの影響（関心の高い県民による回答だとか、1,000 名程度の少数回答だとか、地域の偏りがあつたり、性別・年齢などに偏りがあつたりとか）が大きいので、どのような疫学的手法で調査を実施したか。	2 月 6 日開催の環境審議会廃棄物部会の資料 5 「2 県民意識」の「県民アンケート」は、2025 年度に環境局で実施した愛知県内に居住する 18 才以上の男女 500 人（受託者のアンケートモニター）を対象としたインターネット調査の結果を使用しています。 回答者の属性は、性別は男性が 49.6%、女性が 50.4%となっています。また、年齢別では、18-29 歳が 15.4%、30 代が 13.6%、40 代が 16.6%、50 代が 17.4%、60 代以上が 37.0%となっています。 なお、本アンケート調査は、現行の計画を策定するために 2020 年度に実施した調査と同様の手法で調査しました。																								